



香港マンション火災_タワーリングインフェルノ 隈研吾設計_富山県立ガラス美術館

26 日午後、香港の高層住宅群で大規模な火災が発生しました。31 階建て全 8 棟の 1984 戸に約 4600 人が住んでおり、今回の火災では 7 棟が影響を受けたとのこと。20 数年前に観た“タワーリングインフェルノ”を彷彿とさせる光景でした。1983 年に建てられたもので、4 割近くが 65 歳以上だそうです。火災が発生した高層マンションには、大規模改修工事のため、窓やドアに発泡スチロールが貼られていました。この発泡スチロールに火が燃え移ったことで急速に上の階に延焼したほか、熱で窓ガラスが割れ部屋の中にも燃え広がったとの見方を示しています。主にネットが燃え、足場の竹に広がり、そしてその火が発泡スチロールへと飛び火したようです。この火災による死者は、確認されただけで 128 人にのぼり、いまだに 200 人以上の行方が分かっていないとのこと、被害はさらに拡大するものと思われます。工事用の足場が竹で、窓には発砲スチロール、こんな工事って日本では考えられません。原因は工事作業者のタバコの火の不始末だとか。今どきの事故じゃないと思います。一瞬にして家族や全財産を失った住民の怒りをどう収めるのでしょうか。崩れ落ちた足場の竹が行く手を塞いで中にも入れない状況のようで、実態解明にはまだ時間を要するとのこと。

24 日の昼ごろ、東京都足立区で乗用車が横断歩道を歩いている歩行者をはねたあと、歩道に乗り上げて次々と人をはねる事故が起きました。11 人が死傷したひき逃げ事故で、フィリピン国籍の 28 歳の女性会社員と 81 歳男性の 2 人が死亡、9 人が重軽傷を負う大惨事となりました。男は自動車販売店から車を盗み、パトカーの追跡から逃走を図っていた最中だったとのこと。暴走した車は、横断歩道を渡っていた女性をはね、そのまま止まることなく歩道に乗り上げ、そこにいた男性もはねて死亡させました。警察は、車を運転していた足立区在住の 37 歳の男を逮捕しましたが、男には精神疾患があり、刑事責任の有無を慎重に捜査しているそうです。最近、こんな後味の悪い事故や事件が頻発しています。被害の遭われた方たちには本当に気の毒です。精神的に異常があれば刑が軽くなる、なんとなく割り切れない気分です。

28日、日環協“経営セミナー”に参加するため、富山市に1泊で出かけてきました。新幹線で2時間と少しでとても快適な旅でした。富山市には新幹線が通る前に2回ほど訪れたことがあります。駅前を含めて景色がすっかり変わって、以前訪れた記憶とはまったく違う街並みになっていました。2日目の昨日はエクスカージョンで午前3時間、地元のガイドさん付きで街歩きをしてきました。江戸時代“富山の薬売り”で財を成した土地らしく、今も続く漢方薬のお店やそれに伴って栄えたガラス容器製造から発展したガラス工芸—隈研吾設計、県立ガラス美術館—、薬の苦さを緩和するための米粉を使った水飴製造 etc. 独特な歴史的文化が漂う街づくりをしているようでした。また、“寿司の街”としてもアピールしていて、回転ずしチェーン店の数よりも昔からの個人の寿司屋さんが繁盛しているようです。昼食は地元の大手寿司店で海鮮丼をご馳走になり、お土産は“白エビ煎餅”と“ホタルイカ”の干物と沖漬けを買って帰ってきました。宿泊したホテルの最上階の朝食会場から見えた冠雪した立山連峰からの日の出の絶景もとても素晴らしく、その余韻にまだ浸っているところです。

26日、東京デフリンピックが閉会し、想定の3倍近い28万人—入場無料—の人々が各競技会場へ足を運ばれたとのことで大盛況のうちに終わりました。女子バスケットとバレーが世界ランキング1位のチームを破り金メダル、TVで観ましたがとても素晴らしい試合内容でした。日本のメダル獲得数は金16、銀12、銅23、計51個と史上最多を記録したとのことで、スポンサー支援など国際的なスポーツイベントの在り方にも一石投じる企画・運営だったようです。あからさまな商業主義の五輪運営ももう少し考えた方がいいのかなと思います。東京新聞1面“筆洗”ではこんな風に総括していました。

筆洗 11月27日付

失敗したときやものごとが思い通りに運ばないとき、人の顔はどうしても下を向きやすいものだ。一説では他人の視線を避けるための行動で、そうやって不安や緊張から身を守ろうとしているという▼ひどいミスをした場合でも厳しい局面に立たされときでも、その競技では選手が下を向くことは許されないそうだ。聴覚障害者のデフバスケットボールである▼「デフリンピック東京大会」のバスケットボール女子決勝戦。日本は世界ランキング1位の米国を破り、初の金メダルを獲得した。第4クォーター、追い上げる米国を粘り強いディフェンスで食い止め、1点差で逃げ切った。お見事だった▼うつむかないのは態度や心構えの話ではない。どう攻めるか、守備陣形は、言葉に頼れないデフバスケでは指示や戦術を選手間のアイコンタクトやしぐさによって共有する。下を向いていれば、それを見逃す。失敗に落ち込んで、コートの上を見つめている時間なんてないのだ▼デフリンピックが閉幕した。バスケットに限らない。世界中から集まったすべての選手が困難や不自由さにもうつむかず、上を向いて歩いてきた人たちである▼喜劇王チャップリンの歌「スイング・ハイ・リト

ル・ガール」にこんな詞がある。「下を向いていたら虹は決して見つけられない」。うつむかない選手たち。大会中、さぞ大きな虹を見たことだろう。

耳が聞こえないということは障害ではないのかもと思わせるほど、健常者との運動能力差をまったく感じさせない参加選手の素晴らしいパフォーマンスでした。次回は2027年オーストリアで冬季デフリンピックが開催されます。スキーやカーリング、アイスホッケーなどで競われるとのこと。また楽しみに応援したいと思います。

高市さんの“ツルの一声”？で、対中国とのゴタゴタに拍車がかかっています。発言撤回や謝罪をする気はサラサラないようで、じゃあ、どうやって決着をつけるつもりなの？今なおパーティーで“裏金”を貯め込んでいる議員、この問題はほっといて議員定数の削減をやりましょうよと野党をあおる方が大事よとでも言いたいのでしょうか。そうではないと思いたいのですが…。東京新聞“本音のコラム”斎藤美奈子さんの論評です。

野党悪玉論の愚 11月26日付

斎藤 美奈子 — 文芸評論家 —

高市首相の「存立危機事態」答弁の余波が続いている。「首相は正しいことを言った」という首相擁護派と「中国を刺激する軽率な発言だった」という首相批判派に意見は大別できるが、日中関係の悪化を歓迎する人はいないわけで、議論は必ず「悪いのは誰か」という責任論に行き着く。

21日の本紙特報面は、衆院予算委員会で質問に立った立憲民主党の岡田克也元外相ら、野党議員の質問を論難する声を取りあげていた。この記事が言う通り、野党悪玉論は筋違いもいいたところ。「どういう場合に存立危機事態になると思うか」という岡田氏の質問は野党のお約束的質問で挑発でも何でもない。それに乗って暴言を吐いた側が悪いに決まっている。

さらにここへ来て「週刊新潮」11月20日発売号が難癖をつけた。「高市首相『台湾有事』答弁の何が悪い」と題したこの記事には「中国を暴走させる朝日新聞と野党の罪」という副題がつく。朝日を名指しするのはいかにも新潮だが、内容といえば、高市答弁を大手新聞で野党が問題視したことで中国のネットメディアには日本への罵詈雑言があふれ、国益を損なっているという意味不明な責任転嫁論。

あのね、メディアや野党の仕事は批判なの。それにもし「高市答弁は正しい」なら、それを引き出した岡田氏にむしろ感謝すべきじゃないんですか？

先日、石破前首相が、台湾有事や“存立危機事態”をめぐる高市さんの国会答弁について、“公の場で言うことではない”と苦言を呈していました。世論調査で首相答弁を“問題ない”とする回答が多いことに対し、“国民は『よくぞ言った』と歓迎しているが、これは危ない”と警鐘を鳴らしています。日中関係については国交回復以来、細心の注

意を払いながらやってきた、台湾をめぐる問題はすごくデリケートで、“政府の任にあるときは、この問題の発言にはすごく気をつけてきた”と。歴代首相は現職当時、中国に対する存立危機事態については、“常に考えてはいるが、公の場で言うことか。歴代政府はそれをしなかった”とも。タカ派女性首相として、目立ちたいというハヤリの気持ちがポロリとこぼれ落ちてしまったのかな？その高市さん、景気対策では湯水のごとくカネー赤字国債一をばらまくような方向性を示していますが、“天敵”財務官僚との軋轢に耐えられるのかな？週刊ポスト最新号には、財務官僚の不祥事&軽すぎ処分がズラズラと並べ立てられていましたが、なんか高市さんのヤラセ？みたいに読みました。東京新聞“本音のコラム”三木義一さんのピリ辛論評です。

バラマキ高市情けなや 11月27日付

三木 義一 — 青学大名誉教授 —

「ご隠居、高市さん沈黙のままで〜す」

「やっぱり理性のない、弱い人だったの。自らのミスを自ら正すことのできない人だ。ということは、これから怖いぞ。問題が出て、次々人のせいにしていく」

「米中首脳の話電話協議をしたようですが、その内容は？」

「都合の悪いことはしゃべらんだろうの」

「熱狂高市信者の支持率はますます燃え上っているようですがね」

「トランプお MAGA を支持する X のアカウントが米国外にあることが徐々に明らかになり、国外の政治勢力が米国を陥れるためにやっている可能性が高まってきているよ。日本の高市信者が外国人ということはなさそうだが、ごく少数の狂信的右翼たちが拡散しているのかもしれない」

「21兆円の財政出動をするって言うんで、みんな喜んでますぜ」

「そうかい、わしゃそのほうが心配じゃ」

「おや、どうして？みんな困っているのに、金だすのがいけねえ？」

「国債でやる、と断言しておる。イギリスのトラス政権のようなことはないと思うが、不安だの。防衛力と外交力を強化と言いつつ、本人は外交力が弱いことを示し、中国問題の今後がわからん、そもそも今は、食料品を中心にインフレ傾向だ。こういう時に金をばらまくと…」

「ますます、上がる！」

今般の“ギスギス”感を早く払しょくして、高市政権の道筋をはっきりしてほしいものです。発言撤回なし、謝罪なし、景気迷走では早期解散総選挙しか選択肢はなさそう、そうすれば石破政権より短命でおわっちゃうかも？

ウクライナ出身の大相撲力士安青錦が、九州場所千秋楽で横綱・豊昇龍との優勝決定戦を制し、史上最速で大関昇進を決めました。21歳8ヵ月、母国を襲った戦火を逃れて来日後、わずか3年ほどでの大関昇進、異例の大出世です。とにかく相撲が日本人よりらしい、強い、日本語も流暢、次の優勝で横綱キマリ！って勢いですネ！